

特別講演会のお知らせ

講師：大貫 敏彦 教授

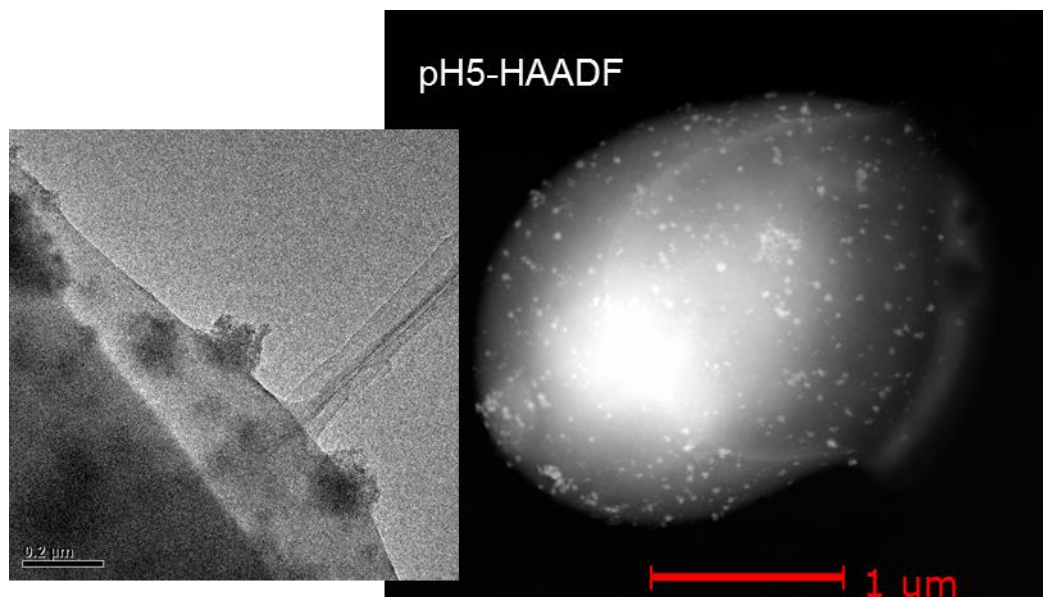
(東京工業大学科学技術創成研究院先端原子力研究所)

演題：「放射性核種の環境中における移行挙動の解明－固液界面における鉍物化と微生物への濃集－」

日時：平成 28 年 6 月 21 日 (火) 13:00～

場所：理学部 E002 講義室

ウランなどの長寿命核種は地球の地質表層付近で環境の変化により、数百から数キロメートルの範囲を百万年以上の長期間にわたり移行している。放射性核種は地下水に溶けて移行するが、鉍物や微生物などの固相との相互作用により移行速度が水の流れに比べて遅く（遅延）なる。遅延機構を調べると、鉍物などの表面数マイクロメートルの範囲で起こっている反応が、遅延の要因であることが明らかになった。鉍物、微生物細胞と水溶液との界面で起こる反応について概略する。



数十 nm サイズの希土類リン酸塩鉍物が生成した酵母細胞の透過電子顕微鏡写真（右）
左は拡大写真（細胞表面から鉍物が成長しているのが分かる）なお、溶液にはリン酸を添加していない。

連絡先：理学研究科化学専攻 放射線反応化学研究グループ
(自然科学研究支援開発センター)

中島 覚 (内線 6291)

E-mail: snaka@hiroshima-u.ac.jp

集中講義の受講者は講義の一部であるので必ず受講すること
－この講演会は5研究科共同セミナーの認定科目です－

フェニックスリーダー育成プログラムの放射能環境保全コースセミナー
(分野融合セミナーの指定セミナー：5ポイント) としても取り扱います。日本語のみでの開催です。